

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4471000291 | | |
| 法人名 | 医療法人 功尚会 | | |
| 事業所名 | グループホームひばり | | |
| 所在地 | 大分県杵築市大字南杵築字大手内1941番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年10月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成21年12月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000291&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年10月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、職員ともに楽しそうに毎日過ごし、笑顔がある ・家族等の面会が多く、家族協力的 ・建物が明るく広く開放的 ・食事が美味しい |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人の医療機関と隣り合わせており、医師もそこに住んで地域医療を担っている。いつでも病状を相談できる体制があり、安心できる環境にある。 ・家族の面会が多く、来所の家族は利用者笑顔で話しており、在宅に近い自然な雰囲気がある。 ・利用者がそれぞれ別のヘアスタイルや服装をしており、清潔に心がけている。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全体で確認し、ホーム独自の理念を作っている。月1回のミーティング、申し送り等で共有を図り、具体的ケアについても計画の統一化を図っている。 | 地域密着型サービスの意義を職員で考え、2年前に「地域社会に溶け込む」という文言を加えた。職員もよく理解しており、意義を共有しながら実践に向けている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 保育園との交流、買い物、同施設内での交流を行っている。(市報を毎月区長よりいただいている) ボランティア等の参加や地域新聞も年2回発行している。 | 地域に向けたグループホーム新聞を年に2回発行している。ボランティアの受け入れも多く、畑やおやつ作りを共にすることを願っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実習生やボランティアの受け入れも積極的に行っている。また、随時地域の方々からの認知症相談も受けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月1回開催。市の担当者・地域の代表・家族・入居者等の出席により意見・要望があれば取り入れサービス向上に活かしている。ホールに提示している。 | 2か月に1回、定期的開催しており、幅広い人々の参加で運営に関する報告と地域に役立つ健康知識の講座なども併せて行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 交流会や「ひばり通信」等も協力が得られており、連携を図っている。 | 年に2回発行のグループホーム通信を市役所のラックに置き、情報を提供し、地域に開かれた施設になることを心掛けている。また、市が主催する地域の交流会にも参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会を行ない、職員の共有確認を図っている。安全面を配慮した自由な暮らしを支えるよう努めている。ホール入口の鍵も出来るだけ開けている。 | 身体拘束の意味を職員がよく理解している。ホールの入口は必要最小限の施錠にとどめている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会やミーティング等で高齢者虐待防止関連法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。 | | |

事業者名:グループホーム ひばり

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修等に参加するとともに活用できるよう取り組み支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分説明を行ない、理解・納得を図っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会も多く話し合う機会もあり、直接要望が聞かれるのでその都度対応している。また、会議等意見が反映されるようにしている。相互に言いやすい関係を作り、意見箱の設置も行っている。 | 家族会や誕生会などで家族と話し合う機会を多く設けている。面会も多く、ふだんから話しやすい雰囲気を作り、何か意見を言ってもらった時はミーティングで話し合い、反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のミーティングにおいて職員全体で話し合い意見・提案を聞いて反映させている。 | 月に1回のミーティングは、事前に職員から話し合いたい内容を聞いて議案に取り入れている。全員参加で十分な時間をとり、職員の提案や意見を反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務の希望等を聞き、働きやすい環境に努めている。職員の気分転換を図る等の目的で定期的に食事会等行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内研修やその他の研修を受ける機会を確保し、育てる取り組みをしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会等に参加させ、他施設の方との交流の機会を作りサービス向上への取り組みをしている。市のグループホーム連絡会等も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 個人の要望等を聞き入れ安心と信頼関係を確保するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族等の要望等にも聞き入れ不安の除去に努める様にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族の希望を聞き、支援の見極めを行ない、その人に合ったサービス利用(対応)としている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | スタッフ全員十分把握し、暮らし共に本人を支えていく関係に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員全体、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係に努めている。定期的面会等。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 自由に面会や外出等が出来、馴染みの人との関係を保てる様支援に努めている。(ドライブ等で自宅又は自宅近くを通る等) | 家族や知人に会いに行ったり、これまで大切にしてきた馴染みの場所や人とつながっているよう、ドライブで近くを通るなどの機会を多く設けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を常に第一に考え関わり合い、楽しく過ごせる様に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用後もこれまでの関係を大切に行き来したり、必要に応じ相談や支援に努めている。家族・本人遊びに来てもらう等。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望や意向を把握し、ケアマネジメントに努めている。日々の行動・言葉・表情等大切にしている。 | 希望や意向を把握できるよう、行動や表情から読み取ることを大切にしている。また個人の生活歴を知るように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりの暮らし方、生活環境等これまでの経過等の把握を行い、サービスに努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの能力等に応じた生活となるよう現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回全体のミーティングを行い、全員で話し合い、介護計画の作成やモニタリングに努めている。(本人・家族の意見を反映している) | ミーティングで介護計画について話し合い、モニタリングを行っている。定期的な見直しは3ヶ月に1度、変化があった場合には随時見直している。家族にも相談している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとりの個別ケアの計画に基づき記入し、全員で話し合い見直し等に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 一人ひとりの状態に応じた柔軟な対応、支援を行うよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議を2ヶ月に1回行ない、地域の区長を始め民生委員・福祉委員・市職員と意見交換の機会を設けている。理美容・商店・消防等把握している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望による受診支援としている。実際に現在1人他の医療機関を受診している。歯科・整形等他の機関も希望により受診している。 | 入居の際に希望を聞き、以前からのかかりつけ医を希望する人には、そのようにしている。家族の付き添いが原則だが、病状は医師から書面で教えてもらい、職員は状態の把握に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の情報、気づきにより異常等あれば看護師に報告し適切な医療につなげている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院との連携に努め、早期退院ができる様情報交換も行っている。定期的見舞いとしている。実際2名の実例あり。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人・家族等の十分な話し合いを行い、医療との連携を図りながら終末期介護も行っている。十分な話し合い後、重度化に伴う意志確認書も作成している。実例4名いる。 | 入居時に重度化した場合のことを話しあい、終末期の対応をどうするか方針を共有している。段階を追って話し合いを持ち、書類も整備されている。法人の病院との連携で看取りも数例経験し、今後も受け入れの体制がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内でもAED等救急の研修を年1~2回全員行ない、マニュアル作成もある。ミーティング(月1回)でも定期的行なっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の対策マニュアル作成年2回(昼・夜)の避難訓練、備蓄も準備している。地域への協力署名もあり名簿作成している。家族や地域、消防、消防団への声かけも行い協力を得られる様お願いしている。 | 災害対策マニュアルが整備されており、年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。地域協力体制の話し合いも行っており、備蓄もしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 診察や来客時、トイレ誘導等においても対応や言動に配慮し、プライバシーを損ねないように気をつけている。管理者は職員へ機会があるごとに説明・指導している。守秘義務は着任時にも説明し、承諾書を書いている。 | 高齢者の尊厳を大切にして、誇りやプライバシーを損ねない対応や声かけをしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 2つに1つの選択を行なって「ドライブ等行く。行かない。」等本人の思い希望を聞き自己決定の支援に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの希望を聞き入れ 例「ドライブ行きますか？」等状態・ペースを大切に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服や化粧・髪飾り等その人らしい身だしなみを支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 本人の能力に応じたものとしおしぼり準備・お盆並べ、お盆・テーブル拭きなど行なっている。 | 食事を楽しめるように本人の好みに合わせた食材の大きさや柔らかさにしている。バラエティに富み、おいしい食事である。また、能力に応じておしぼりの準備やテーブル拭き、下膳をしてもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量をチェックし、一人ひとりに応じた食事内容としている。状態に応じた支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後全員行なっている。(一人ひとりに応じたケア)月1回専門のスタッフによるチェック及びケアを行なっている。(希望の方のみ)レクリエーション等でも口の体操、リハビリを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを知り自立に向けた取り組みを行なっている。定期誘導やパットの使用については一人ひとりに合った方法を行なう。ミーティング等で毎月話している。 | 個別の排泄パターンを知り、定期的に誘導して自立に向けた支援をしている。ミーティングでも話し合い、リハビリパンツ使用についてもその人に合った方法で行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの状態に応じた工夫を行なっている。飲食物、運動等(水分量・牛乳・ヨーグルト等) | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一日毎に計画しているが、希望や汚染があれば毎日入浴できる。入浴しない日は足浴を実施している。タイミングを図り声かけしている。(季節感を出す様入浴剤やゆず湯等の工夫も行っている) | 2日に1回の入浴を行っている。希望により毎日でも入浴できる。楽しむことができるように、入浴剤やゆずなどを入れて誘っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの状態に応じた支援を行なっている。(昼寝・時間等)生活リズムを大切にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員が理解できており(ファイル作成)服薬の支援に努め状態等の変化にも努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ドライブ・洗濯たたみ、犬の世話、梅干作り、柿干し作り、お盆拭き、テーブル拭き等一人ひとりの能力に応じた楽しみの支援を行なっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 戸外へ出かけるよう常に努めている。ドライブ以外ではテラスでお茶、散歩、買い物、他施設との交流等出来るだけ外の空気にふれる様に支援している。 | 外の空気に触れるように常に努めており、職員との買い物にも誘って、一緒に出かけている。夕涼み会などの他施設との交流にも同行して行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在は職員が預っている。希望や能力があれば支援につなげたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望により電話の支援をしている。手紙は定期的(年賀状・暑中見舞い)に全員行ない、個別に出す支援を行なっている入居者もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節のかざりつけや家庭的雰囲気のある掲示などをして五感で感じられるよう工夫している。掘りコタツや畳の空間も設けている。 | 共用空間では気持ちよく過ごせるように光や音、清潔に気を配っており、季節を感じる花や飾り付けをしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル・居間・ソファ・テラス等気の合った人同士が過ごせる居場所の工夫もしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブル・イス・仏壇等一人ひとり使い慣れた品を置き、家具等も置くことができる。安心して過ごせる工夫をしている。 | 個人が落ち着ける場所として、使い慣れた品物を置くようにし、安心して過ごせるよう、床が滑らないように配慮したり、片付けにも気をつけている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室・トイレ等の場所が分かる工夫をしている。室内バリアフリーでトイレ・ホールに手すりの設置等がしてある。 | | |